

田代神楽 ~ 芸能発表会 ~

未来へつなぎ、伝統を守るために選ぶ道

地域住民の高齢化や、人口減少による担い手不足など
伝統文化の存続を阻む要因はさまざまあります。
そんな中、有志で立ち上がった若者たちによる舞が披露されました。



「三宝の舞」を演じる本川根中学生



初の女性舞い手による「駒の舞」

地域の垣根を越えて、 再びつなぐ神楽の伝統

9月16日(土)、田代地区に伝わる県指定無形民俗文化財の「田代神楽」が田代区会館で行われ、代表的演目の「駒の舞」と「三宝の舞」が披露されました。舞い手を務めたのは、本川根中学生3名の他、地域おこし協力隊の渡辺実優さん等女性3名。本来は若い男性により奉納されて来ましたが、地域住民の高齢化や田代神楽保存会員の後継者不足などにより、長い間中断されていました。そんな中、同保存会の山田典秀さんから田代神楽の話聞いた渡辺さんが興味を持ち、田代神楽の復興に協力したいと思い、SNSによりメンバーを募りました。これに、松浦あづみさん(徳山区)と梶山寧々加さん(島田市)が賛同し、6月から週1回の練習を重ね、実現に至りました。この日、会場には約80名の観客が訪れ、舞い手に大きな歓声と拍手が送られました。



田代神楽保存会
会長 おおした としろう 大下 敏郎さん

本来、田代神楽は年に2回、2月と9月に開催される祭典の中で行われていました。しかし、後継者不足などにより主になつてやってくる担い手が不足し、存続することが難しくなってきました。前回は、令和元年に行われましたが、その際に、田代神楽はこれで最後になると発表しました。そうした中、若者が関心を持って、田代神楽を復活できたことを嬉しく思います。そしてこれが引き継がれることを願っています。また、田代地区の皆さんと、舞い手の皆さんが打ち解け合い、とてもいい雰囲気練習に取り組み、本番を成功させることができたとうれしく思います。

この地域に神楽を大切にしている人たちがたくさんいることを実感しました。舞を覚えるのは難しそうかと思いますが、地域の皆さんと楽しくおしゃべりしながら練習をしているうちに、いつの間にかできるようになりました!気軽に練習見学に来てほしいです。 渡辺実優さん

はじめは渡辺さんに誘ってもらったことが始まりで、何も知らない状態で始めました。元々、伝統芸能に興味があり、昔から続く川根本町の神楽の一つ、その担い手になれたことをとても誇らしく思います。練習も地域の方と交流ができて楽しかったです! 松浦あづみさん

私は島田市在住ですが川根本町で郷土芸能に関わり田代神楽保存会とのご縁があり、地区の皆さんと練習を積み重ねるごとに地域の伝統を今後は自分たちが残していきたい!と強く思い本番で舞い手をさせていただきました。 梶山寧々加さん



「駒の舞」写真提供：岩田 賢二さん